

■ ランチョンセミナー ■

11月3日(土) 11:45～12:45

ランチョンセミナー1 第1会場(岡山コンベンションセンター 3F コンベンションホール)

『日立生化学自動分析装置のご紹介』

演 者: 浜住 由子(株式会社日立ハイテクノロジーズ マーケティング部)

座 長: 津川 和子(広島大学病院 診療支援部)

主 催: 株式会社日立ハイテクノロジーズ

今日、多くの臨床検査室では生化学自動分析装置が使用されており、診断・治療に必要な情報を迅速かつ正確に提供することが求められています。近年では、検査室の品質要求規格(ISO15189)の取得や医療安全管理への対応など、多くの品質上の課題に取り組む必要性も生じており、ますます検査データの信頼性向上が求められています。

そこで本演題では検査データの信頼性向上への貢献を目指して、当社が新たに開発した機器システムについてご紹介させていただきます。

ランチョンセミナー2 第2会場(岡山コンベンションセンター 1F イベントホール西)

『かくれ心不全をみつける ―心筋バイオマーカーを用いた病診連携の提案―』

演 者: 片野 信司(ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 マーケティング部門)

座 長: 小倉 克巳(高知大学医学部附属病院 検査部技師長)

主 催: ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

高齢化社会へと移行行く中で、我国では心不全の予備軍とも言えるべき生活習慣病患者が年々増加しており、包括的医療を推進する上で基幹病院と開業医の医療連携が重要となる。一方で病診連携を推進するには、開業医の先生方に無症候を含め精査が必要とされる患者の診断と基幹病院への明確な紹介基準が必要であるが、実際には専門外の診療であり連携上の課題も多いのが現状である。本セミナーでは、先に改訂された慢性心不全治療ガイドライン(2010年改訂)を元に、心筋バイオマーカーを用いた新たな病診連携システムの可能性について報告する。

ランチョンセミナー 3 第3会場（岡山コンベンションセンター 1F イベントホール東）

『日常診療で遭遇する異常心電図』

演 者：宮地 晃平（独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 循環器科）

座 長：筑地日出文（倉敷中央病院 臨床検査科副技師長）

主 催：フクダ電子 岡山販売株式会社

心電図検査は、胸部レントゲン写真、血液検査と並び、スクリーニング目的で行われる検査の中でも最も多い検査の一つである。ルーチンで行われ、その多くの場合は正常範囲内であるが、時に見逃してはならない重篤な疾患に遭遇する。最近の心電図自動解析の診断能力の高さには目を見張らされるものがあるが、それでも尚、検査技師によるちょっとした工夫により正確な診断に近づく症例も多い。

本セミナーでは、日常診療で遭遇しうる、不整脈、虚血性心疾患、心筋症などの心電図について、その特徴や検査のコツについて概説する。

ランチョンセミナー 4 第4会場（岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール）

『肝臓診療最前線 ―診断から治療までの最新の話―』

演 者：能祖 一裕（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科分子肝臓病学 准教授）

座 長：木村 泰治（岡山済生会総合病院 中央検査科 技師長）

主 催：エーディア株式会社

日本では、年間約3万5千人の方が肝がんで亡くなっており、その多くはC型肝炎を中心とするウイルス性慢性肝疾患を起因としている。

ウイルス型肝炎からの肝がん撲滅は国の重要課題とされ、現在種々の対策が進められている。

本セミナーでは、肝臓専門医の先生をお招きし、これら肝がんの診断・治療に関する最新の話題を概説頂き、臨床検査学に関わる方にとって必要となる情報を提供する。

ランチョンセミナー 5 第5会場（岡山コンベンションセンター 3F 301 会議室）

『全国で共有できる基準範囲の設定に向けて』

演 者：細萱 茂実（香川県立保健医療大学 大学院保健医療学研究科臨床検査学分野 教授）

座 長：高松 典通（徳島大学病院 診療支援部 部長）

主 催：ベックマン・コールター株式会社

日臨技はトレーサビリティを確保した105基幹検査室で全国5700人の健常ボランティア測定値に基づき、全国で共有できる基準範囲を設定した。また、市原らによる共有基準範囲設定国際プロジェクトは、国内およびアジア地区における健常者測定値の技術的・生理的変動の解析結果を報告した。これらに福岡県五病院会を中心に設定した基準範囲を加え、全国で共有できる基準範囲設定に向けた検討が日本臨床検査標準協議会で進められている。基準範囲の標準化実践に向けたこれら動向が集約され、広く普及し活用されることが望まれる。

ランチョンセミナー 6 第 6 会場（岡山コンベンションセンター 3F 302 会議室）

『バリデーションデータの有効的な利用法』

演 者：中尾 隆之（徳島大学病院 検査部 副技師長）

座 長：長尾 健次（和光純薬工業株式会社）

主 催：和光純薬工業株式会社

日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会から「定量測定法に関するバリデーション指針」が発表され、検査データの信頼性を向上するための意識が高まりつつある。しかしながら日常検査現場においてバリデーションデータの活用法が明確化されていないために実施に至っていない状況がある。バリデーションの基本は、患者データを信頼あるものにするための確認を妥当性ある手順で行うことである。今回、日常検査室で役立つツールとしても目的も含めて、データを採取した事例を報告する。

ランチョンセミナー 7 第 7 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

『糖尿病マーカーのご紹介と最近の話題』

演 者：松本 美枝（積水メディカル株式会社 学術西日本グループ）

主 催：積水メディカル株式会社

本年 4 月 1 日より、わが国でヘモグロビン A1c（HbA1c）の JDS 値から NGSP 値への移行が始まったことは先生方のご記憶に新しいと拝察します。移行に伴う診断基準や治療目標の変更はもちろんのこと、インクレチンなど新しい治療薬の登場など、糖尿病と検査を取り巻く環境は大きく変化しています。今回は、HbA1c とともに、透析や妊娠糖尿病などでよりきめ細やかに病状を把握できるマーカーとして、グリコアルブミン（GA）のご紹介と、糖尿病検査を取り巻く最近の情報をあわせてご提供いたします。

ランチョンセミナー 8 第 8 会場（岡山コンベンションセンター 4F 407 会議室）

『高精度血小板測定の有用性とピットホール』

演 者：星野 勝信（アボットジャパン株式会社営業統括部営業推進）

主 催：アボットジャパン株式会社

血液検査における CBC 測定は、標準化に向けて施設間差や機種間差の是正が進んでいますが、血小板測定に際し低値域の高精度測定が必須なことに加え、小球性赤血球や赤血球破碎細胞に代表される夾雑物を除外する必要があります。広く使用されている電気抵抗法とレーザー解析法に加え、免疫学的血小板測定解析法による高精度血小板測定の現状と留意点をご紹介します。ご来場をお待ちしております。

11月4日(日) 11:50～12:50

ランチョンセミナー 9 第1会場(岡山コンベンションセンター 3F コンベンションホール)

『NT-proBNP、トロポニンT測定とチーム医療への応用』

演 者：佐藤 幸人(兵庫県立尼崎病院 循環器内科 部長)

司 会：土田 倍由(シスメックス株式会社 広島支店 プロダクト営業課)

主 催：シスメックス株式会社

日本循環器学会の「慢性心不全治療ガイドライン 2010 年改訂版」において、BNP、NT-proBNP 測定は臓器特異性が高く、予後予測能が高いことより、多くのバイオマーカー候補の中から、心不全の診断、予後推定において第一候補として推奨された。一方、近年では「心不全のチーム医療」が提唱されており、入院中から外来通院時まで一貫した治療の継続が求められている。チーム医療では簡便に再現性をもって結果が得られる検査法が望ましいが、BNP、NT-proBNP 測定はこの条件を満たしており、新しい展開が期待されている。

ランチョンセミナー 10 第2会場(岡山コンベンションセンター 1F イベントホール西)

『HbA1c の国際標準化をめぐる最近の話題』

演 者：柱本 満(川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科)

古川 聡子(川崎医科大学附属病院 中央検査部)

座 長：河口 勝憲(川崎医科大学附属病院 中央検査部技師長補佐)

主 催：協和メデックス株式会社

HbA1c は Hb にグルコースが非酵素的化学反応で安定的に結合した糖化 Hb と定義され、過去約 2 か月間の血糖値の平均を反映するため、現在では、疾患診断、治療、検診など、糖尿病臨床の様々な分野で幅広く用いられる重要な検査となっている。

我が国では、1993 年 8 月に日本糖尿病学会を中心として発足した「グリコヘモグロビンの標準化に関する委員会」を中心として HbA1c 測定の標準化が推進され、HPLC 法(KO500 法)を基準測定法とし、校正用の高品質の標準物質が長期にわたって提供され続けることにより、国内 HbA1c 測定系の良質な品質管理が維持されてきた。

一方、世界では、測定対象(HbA1c の定義)、測定系(測定法・標準物質)など、その歴史的相違に基づいて、三種類の異なる HbA1c の規格(IFCC 値、NGSP 値、JDS 値)が存在することが知られていたが、このほど、平成 24 年 4 月 1 日をもって、我が国の HbA1c 値を NGSP 測定系に基づき測定し、NGSP 値で表記することが決定された。

本セミナーでは、この三種類の HbA1c 規格の相違について解説し、我が国における HbA1c 国際標準化への歩みや、JDS 値から NGSP 値へと大きく舵を切ることが決定されるに至った背景について概説する。

同時に、2010 年に岡山県内 8 施設を対象に実施された JDS 基準での測定値調査(HPLC 法、免疫法)と、2012 年 5～6 月に中国地方 5 県 28 施設を対象に実施された NGSP 基準での測定値調査(HPLC 法、免疫法、酵素法)について併せて報告をおこなう。

ランチョンセミナー 11 第3会場（岡山コンベンションセンター 1F イベントホール東）

『2012 臨床から学ぶ HIV 検査のノウハウ』

演 者：和田 秀穂（川崎医科大学 血液内科学 教授）

座 長：草野 展周（岡山大学病院 感染症内科学 教授）

主 催：富士レジオ株式会社

近年、HIV 感染から AIDS 発症までの期間が短くなってきており HIV 感染症の早期診断のための HIV 検査の重要性は益々高まってきた。現在、HIV スクリーニング検査の試薬には、第3世代（IgM+IgG）あるいは第4世代（p24+IgM+IgG）が用いられている。測定法からみると、IC 法による2種類の迅速検査キットの有用性が、「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン（2012年3月：第3版）」で示されているが、PA 法、ELISA 法、CLEIA 法などの様々な検査法と、「どのように使い分けるのか」が重要である。今回、臨床医の視点で HIV 感染症の検査から診断・治療について解説したい。

ランチョンセミナー 12 第4会場（岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール）

『LAMP 法の臨床応用～小児の百日咳, マイコプラズマ感染症を中心に～』

演 者：舟橋 恵二（JA 愛知厚生連江南厚生病院 臨床検査技術科 技師長補佐）

座 長：藤井 寛之（倉敷中央病院 臨床検査科 副技師長 細菌ウィルス検査室 室長）

主 催：栄研化学株式会社

百日咳とマイコプラズマ肺炎は、日常診療で経験することの多い小児呼吸器疾患である。実験室診断として、抗体検査による血清学的診断法や百日咳では菌分離を行うのが一般的であるが、急性期の診断は困難である。2008年より、当院では両疾患の迅速診断法として LAMP 法を実施している。今回、LAMP 法によるこれまでの DNA 検出成績を報告するとともに、LAMP 法の導入に至る問題点や使用経験なども発表する予定である。

ランチョンセミナー 13 第5会場（岡山コンベンションセンター 3F 301 会議室）

『銀増幅を用いた高感度インフルエンザ迅速診断システム』

演 者：古賀 稔（株式会社ミズホメディー 品質保証部 学術課）

座 長：糸島 浩一（岡山大学病院 医療技術部検査部門）

主 催：株式会社ミズホメディー

近年、インフルエンザの診断には迅速診断キットが広く用いられているが、陽性反応を示すためには検出感度以上の抗原量が必要で、発症初期にはインフルエンザウイルス感染があるにも拘らず陰性と判定される場合がある事が報告されている。そのため医療機関から迅速診断キットの検出感度向上を望む声は多い。本システムは、イムノクロマト法と写真の現像技術を組み合わせることで、判定ライン上の標識粒子に対する銀増幅反応を行い、ウイルス抗原検出の高感度化と自動判定化を実現している。今回、本システムについて紹介する。

ランチョンセミナー 14 第6会場（岡山コンベンションセンター 3F 302 会議室）

『検体検査システムにおける非常時対応能力 - 東日本大震災を経験して』

演 者：半田 真澄（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)／テクニカルソリューション
&ディベロップメント）

座 長：大川 博（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)／中四国ディストリクト）

主 催：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

地震・津波・原発事故というこれまで経験した事のない複合災害の大きさに息を呑み、甚大な被害に心を痛めた東日本大震災。この災害経験を次の対策に繋げていくためにも、どのような課題があったのか、どのような取組み改善が必要なのかを考え続けていく義務があります。過去の災害、今回経験した東日本大震災を元に、医療面・臨床検査面において得られた新たな課題等につきまして、先生方と共に考える場を持てれば幸いです。ご来場をお待ち申し上げます。

ランチョンセミナー 15 第7会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

『全自動輸血検査装置WADIANAによる輸血検査』

演 者：原 邦雄（和光純薬工業株式会社 臨薬開発部）

榎 亮（株式会社兵庫臨床検査研究所 検査部）

座 長：木村 泰治（岡山済生会総合病院 中央検査科 技師長）

主 催：和光純薬工業株式会社

ゲルカラム法の基礎的特徴および、運用面で活躍する全自動輸血検査装置 WADIANA の特徴を活かした運用方法を紹介します。24時間稼働の病院および検査センターには最適なコンパクト設計で、血球試薬や検査カードのロスを最大限に減少させ、検査技師の拘束時間も軽減できる全自動輸血検査装置です。血液型検査および不規則抗体検査、交差適合試験を実施し興味ある知見データを報告します。

ランチョンセミナー 16 第8会場（岡山コンベンションセンター 4F 407 会議室）

『2025 年モデルに向けた病院機能の再編と臨床検査科の対応』

演 者：松尾 久昭（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

主 催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

社会保障と税の一体改革の議論の中で、2025 年に達成すべき医療・介護の望ましい姿、いわゆる 2025 年モデルが作成され、公表されました。今春の診療報酬改定にも、その達成に向けた第1歩と言える内容が数多く散りばめられています。今回のランチョンセミナーでは、①2025 年モデルとは？②今回改定にそれがどう散りばめられているか？③臨床検査科としての中長期的な対応のポイントは？3点について、厚労省の資料を交えながら、ご説明させていただきます。